

ビジネス実務学科 2025 年度学科 FD 報告

日時：9月9日 10時40分～12時15分

場所：短大棟2階会議室

参加者：三藤、藺森、井戸、小原、坂上、瀬戸、廣瀬、矢澤、若月

主題：成績分布と授業アンケートから得られた課題の検討

1. 成績分布から見る成績評価の妥当性検証

井戸先生より、令和7年度前期の成績の分布について説明があった。

学科全体の成績分布を見た場合、フィールドごとのGPAの差は、昨年度より縮小した。このうち、単位不認定の割合は情報フィールドに多かった。学年別にフィールドごとのGPAの差を見た場合、2年生の科目では縮小したものの、1年生の科目では拡大した。1年生での拡大の主要因は、医療関係の科目とみられる。なお、フィールドごとのGPAを比較すると、高低の傾向は例年通りであった。

科目ごとに成績の平均を見た場合、高い科目は8科目（昨年度比2科目増）で、そのうち昨年から継続していた科目はクッキング演習のみであった。低い科目は昨年度から2科目増えて12科目となった。医療事務関係の3科目、経済学概論、スポーツと健康の5科目が昨年から継続して低かった。

担当者間のばらつきは、7科目から4科目に減少（クッキング演習、サービス実務、会計実務演習が継続）したが、クッキング演習は科目名が同じだけで、内容は異なる（コース専門と、その他の科目に分かれる）ため留意が必要である。

次に、履修者数と成績評価の関係を確認した。わずかに負の関係があったが、最小二乗法による回帰直線の傾きは0.01未満であり、履修者数はGPAに影響していないと分かった。履修者数の多寡にかかわらず、同等の尺度での成績評価ができてきているようだ。

2. 授業アンケートから見る課題

続いて、授業アンケートの内容に基づく授業改善について、瀬戸先生から案内があった。

主な課題として、①学習時間の短さ、②設備への不満、③学習意欲の低下（「さらに学びたい」の回答の減少）、④学内資源（図書館、就職支援室等）の未使用の4点が挙げられた。これらの改善に向けて、グループワーク形式で対応の意見交換を行った。ここで出された主な課題と対応案を以下に示す。

(1) 学習指導と学習意欲

- 上位層への対応：学習意欲の高い学生の意欲を維持し、強化する仕組みが求められる。
- 中長期に向けた指導：授業内外で学習習慣の定着を促し、継続して学力を伸ばす取り組みが求められる。

(2) 授業運営・評価

- 習熟度別授業・試験のあり方：「試験による厳格な測定」あるいは「必修科目の習熟度別化」により、学習基準の明確が必要である。
- 授業外学習時間の把握：現行の設定には「授業外学習」の定義が明示されておらず、実態把握が困難である。検定やテスト勉強、放課後の残留学習なども含めてはどうか。

(3) アンケート改善

- 設問の分かりやすさ：回答者の誤解を防ぐため、質問文を簡潔かつ具体的な表現へ更新する必要がある。
- 「さらに学びたい」意欲の調査：現行では「学生が望む授業」について情報が得られないため、設問の追加が必要である。

(4) 学習環境・ICT 環境

- Wi-Fi 運用の改善：学内での学習支援環境の改善に、無線 LAN の安定運用や利便性向上が求められる。

2-2. 授業アンケート結果との関連性

- 授業外学習時間の不足（例：2年生の45%が「0分」）と、今回の「授業外学習調査の分かりにくさ」への指摘は密接に関連している。
- 学習意欲の二極化や「さらに学びたい」項目の低評価に対し、上位層を伸ばす授業や意欲を具体的に引き出す設問の工夫が必要である。
- 施設・ICT 環境の不满については、現場感覚として Wi-Fi 改善の提案が一致している。

2-3. 対応すべき課題と、対応の方向性

短期（早急）

- 「授業外学習」について、回答者の解釈に幅が出ないようにアンケート設問を更新する。
- Wi-Fi 環境改善を早急に検討すべきである。

中期

- 習熟度別授業等を検討し、学習意欲の高い層への対応も充実させる。

長期

- 授業外学習の仕組みを作り、主体的学習を促す教育文化を定着させる。

以上

